

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》○鎌田樹寛 岩瀬義昭 本家寿洋 近藤里美 坂上哲可 浅野雅子 浅野葉子 木村恵 朝日まどか 西出真也
児玉壮志 桜庭聡

【概 要】

4年間の学修総括として、作業療法およびリハビリテーションに関する知識と技術を整理し、統合的な能力を培う機会とする。これまで学修した知識と技術について、基礎・臨床医学系領域を統合した知識および専門領域の知識として定着させるため、教科書や参考書、過去5年間の国家試験問題などを資料として用い、グループワークなどを通じて確実なものにしてゆく。学科の全教員が担当する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	国家試験対策に向けた学習の進め方に関する説明	全担当教員
2	身体障害領域の作業療法①	脳血管障害・神経変性疾患・悪性腫瘍の作業療法評価および治療法の知識を整理する。	本家寿洋
3	日常生活援助関連の作業療法	日常生活活動の知識を整理する。特に評価法や各疾患に対応した日常生活活動の工夫、自助具の選択について復習する。	朝日まどか
4	義肢装具関連の作業療法	義肢装具関連の知識と技術を整理、統合 補装具（自助具）の構造と機能、また補装具の作成、装着、適合判定と各種障害に適した補装具処方についての基礎知識についておさらいする。	坂上哲可
5	高次脳機能障害関連の作業療法	高次脳機能障害関連の知識と技術を整理、統合 発生機序、画像診断、症状、評価、治療プログラムの立案までの基本的知識についてのおさらいする。	桜庭聡
6	発達領域の作業療法	発達障害領域における作業療法について、対象疾患の基礎知識を復習し、疾患に応じた評価および治療についての知識の整理を行う。	木村恵
7	精神障害領域の作業療法①	精神障害領域の作業療法に関する基礎知識の整理と統合をふまえ、精神疾患患者への作業療法に関する症状や評価、治療プログラムの立案などの知識と技術を整理・統合する。	浅野雅子
8	精神障害領域②と老年期領域①の作業療法	精神障害領域の作業療法に関する基礎知識の整理と統合をふまえ、精神疾患を有する方への作業療法に関する症状や評価、治療プログラム立案などの知識や技術を整理・統合する。 老年期障害領域の作業療法に関する基礎知識の整理と統合をふまえ、老年期の方への作業療法に関する症状や評価、治療プログラム立案などの知識や技術について振り返る。	鎌田樹寛 浅野雅子
9	前半講義のまとめ	国家試験出題範囲に準じた内容の確認をおこなう	全担当教員
10	身体障害領域の作業療法②	心電図の見方を中心に心臓リハビリテーションについて学ぶ。	桜庭 聡
11	地域領域の作業療法	地域領域の作業療法に関する知識の整理と統合	浅野葉子
12	精神障害領域の作業療法③	精神障害領域の作業療法に関する知識の整理と統合	児玉壮志
13	作業療法の管理・運営・関係法規及び基礎作業	作業療法の管理・運営・関係法規及び基礎作業に関する知識を整理する。	岩瀬義昭
14	身体障害領域の作業療法③ 老年期領域の作業療法② 職業リハビリテーション領域	脊髄損傷に関する評価および治療の知識を整理する。 老年期障害領域の作業療法に関する基礎知識の整理と統合をふまえ、老年期の方への作業療法に関する症状や評価、治療プログラム立案などの知識や技術について振り返る。	坂上哲可 鎌田樹寛

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		就業支援を必要とする対象者への作業療法並びに関連職種で活用されている評価、治療プログラムの立案などに関する知識や技術を整理・統合する。	
15	作業療法研究法、作業療法概論および本講義のまとめ	作業療法研究法に関する基本的な知識について、整理する。 作業療法概論に関する基本的な知識について、整理する。 本講義全体のまとめ	鎌田樹寛

【評価方法】

中間試験 40%

定期試験 60%

【備考】

教科書 ： 適宜資料を配布する。

参考書 ： 必要があれば、周知する。

【学習の準備】

- ・4年間の総まとめであることを理解し、能動的な参加を求める（予習・復習各20分以上）
- ・必要があれば、担当教員へ報告・連絡・相談を怠らないこと

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

鎌田樹寛 岩瀬義昭 本家寿洋 坂上哲可 浅野雅子 浅野葉子 木村恵 朝日まどか 児玉壮志 桜庭聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、講義を行う。